

This image shows a single sheet of white paper with horizontal blue or grey ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There is no handwriting or other markings on the paper.

3x

自律神経系

- ☐ 呼吸
- ☐ 無呼吸
- ☐ 多呼吸
- ☐ あえき呼吸

内臓

- ☐ しやくり
- ☐ あえぎ
- ☐ つばを吐く

皮膚色

- ☐ 蒼白
- ☐ <すんだ
- ☐ 暗紫色
- ☐ チフノーゼ
- ☐ 網状
- ☐ 紅潮

運動

- ☐ 痙攣
- ☐ 振戦、驚愕
- ☐ ひくつき
- ☐ 咳嗽
- ☐ <しゅみ
- ☐ あくび
- ☐ ため息

運動系

- ☐ 弛緩した筋緊張
- ☐ 過敏性
- ☐ 四肢
- ☐ 体幹
- ☐ 顔

過剰な屈曲姿勢

- ☐ 屈曲姿勢
- ☐ 四肢
- ☐ 体幹

睡眠覚醒状態

- ☐ 睡眠覚醒状態の急激な変化
- ☐ 散漫な状態

覚醒時

- ☐ 目が泳ぐ
- ☐ まぶしそう
- ☐ <する(強)
- ☐ 目をそらす
- ☐ パニック
- ☐ (ぼんやり)
- ☐ 弱い啼泣
- ☐ 過敏性

睡眠時

- ☐ 目かめる
- ☐ まぶしそう
- ☐ <する(強)
- ☐ 目をそらす
- ☐ パニック
- ☐ (ぼんやり)
- ☐ 弱い啼泣
- ☐ 過敏性

睡眠覚醒状態

- ☐ 睡眠覚醒状態の急激な変化
- ☐ 散漫な状態

興奮・もがく

- ☐ 握りこぶし
- ☐ 舌を出す
- ☐ 指を開く
- ☐ 背中を反る
- ☐ 下肢伸展
- ☐ 上肢伸展
- ☐ 下肢伸展
- ☐ 下肢伸張
- ☐ 過剰な筋緊張

ገጽ ፩

自己鎮靜行動

自己鎮静行動の定義

1. 児が啼泣を始めたり (state 6)、活発に動き騒いでいたり (state 5) する際に
2. 児が自己鎮静行動を開始し
3. State (3) あるいは (4) に落ち着くこと

観察された自己鎮静行動

- ☐ 手を口に持っていく
- ☐ 指や手を吸う
- ☐ サッキング
- ☐ 顔や体を撫でる
- ☐ 腕を組む
- ☐ 手を組む、あるいは腕を組んで胸に押し当てる
- ☐ 足を組む
- ☐ 床やボジョニングマットやボジョニングタオルの壁で足を踏ん張る
- ☐ 何かをつかもうとする
ル、家族や看護師の手や体や衣服を握る
- ☐ 屈曲位
- ☐ 体幹や四肢が、伸展位から屈曲位へ移行
- ☐ ボジョニングタオルの壁を背にして屈曲位へ移行
(成熟児)
- ☐ 仰臥位から側臥位へ移行
(成熟児)
- ☐ 握りこぶし
- ☐ 開いた手指を握る
- ☐ 手が曲がった状態から握る
- ☐ 視線をそらす
- ☐ 過剰な刺激から目をそらす

その他観察された行動をできるだけ詳細に記載

他者との交流が可能であるサイン

児が静かな落ち着いた覚醒状態（State4；静かな覚醒）にあること
State4に加えて、以下のいずれか一つ以上ができていることが必要

- ☐ 目を輝かせる
- ☐ 見つめる
- ☐ 生き生きとした表情
- ☐ 表情が緩む(過数が進めば笑顔も)
- ☐ サッキング
- ☐ ケーイング(「あー」「うー」などの発声)
- ☐ リラックスして屈曲した四肢や指
- ☐ 体動がほとんどないか皆無
- ☐ 筋緊張は平均かそれよりわずかに弱い
- ☐ 四肢の柔らかで円滑な動き
- ☐ 柔らかでゆっくりとした口の動き

State

State 1: 深睡眠

State2: 浅睡眠

State 3: うとうと: 睡眠と覚醒の間

State 4: 静かな覚醒

State 5: 活発な覚醒: 身体活動が活発、覚醒しているか少し嫌がっている(体動や発声あり、周囲への注意は向きにくい)

State 6: 啼泣